



# FD患者における心理的偏倚とドリンクテスト異常との関連性について

*Relationship between psychiatric bias and intolerance to water load in functional dyspepsia*

中田 浩二<sup>\*1</sup>・川崎 成郎<sup>\*1</sup>・小曾根基裕<sup>\*2</sup>・仲吉 朋子<sup>\*1</sup>・羽生 信義<sup>\*1</sup>  
(Koji Nakada) (Naruo Kawasaki) (Motohiro Ozone) (Tomoko Nakayoshi) (Nobuyoshi Hanyu)

柏木 秀幸<sup>\*1</sup>・原澤 茂<sup>\*3</sup>・矢永 勝彦<sup>\*1</sup>  
(Hideyuki Kashiwagi) (Shigeru Harasawa) (Katsuhiko Yanaga)

東京慈恵会医科大学外科学講座消化器外科<sup>\*1</sup>  
東京慈恵会医科大学精神医学講座<sup>\*2</sup>  
埼玉県済生会川口総合病院<sup>\*3</sup>



## 背景

近年、バロスタット法(BS)を用いた検討により、内臓知覚過敏を有するfunctional dyspepsia (FD)患者群では、不安症の程度(STAI-stateスコア)と胃不快・疼痛閾値、胃コンプライアンスとの間に負の相関がみられることが報告され<sup>1)</sup>、心理的偏倚と胃機能との関連性が注目されている。FDの病態検査法として研究目的で行われるBS<sup>2)3)</sup>は、胃内で定圧バルーンを膨らませることにより、胃適応弛緩、内臓知覚閾値、胃コンプライアンスなどの胃機能を定量的に調べることができ、信頼性も高いが侵襲的であることが問題とされる。

一方、ドリンクテスト(DT)<sup>4)8)</sup>は、一定条件下で水または栄養剤を飲ませ、上腹部症状出現の有無と程度を調べる一種の容量負荷耐性試験であり、非侵襲的で簡便に行うことが可能である。BSのように個別の胃機能を定量的に調べるには適さないが、DTの結果は、FDの症状出現に結びつく胃適応弛緩障害や内臓知覚過敏などの病態を複合的に反映すると考えられている(表1, 2)。



## 目的

今回われわれは、FD患者における心理的偏倚とDT結果との関連性について検討した。



## 方法

FD患者(Rome II基準)31名に、DT[体重(kg)×10 (mL)の水を5分間かけて均等な速度で飲み、出現した上腹部症状の強さと持続時間を記録]と心理テスト(STAI-state, SDS, CMI)を行い、両者の関連性について検討した。



## 結果

STAI-state, SDS, CMIのスコアが高いほど、DTにより誘発された上腹部症状は強く、また持続時間が長く認められ、両者の間に有意な相関がみられた( $p < 0.05$ )。



## 結論

心理的偏倚は、FD患者においてDT結果が反映

表1. DTの結果に影響を及ぼす因子

<ul style="list-style-type: none"> <li>・胃適応弛緩障害</li> <li>・内臓知覚過敏</li> <li>・胃排出遅延</li> <li>・栄養負荷に対するフィードバック (神経性・体液性)</li> </ul>
---

表2. BSとDTの違い

	BS	DT
調べる病態	胃適応弛緩障害 胃コンプライアンス 内臓知覚過敏 などの胃機能の個別評価	容量負荷耐性試験 DT結果に影響を及ぼす 種々の病態(表1)の複合 的評価
部 位	近位側胃(遠位側胃, 十二指腸) バルーン留置部位に特化	胃全体(十二指腸, 小腸)
特 徴	信頼性が高い(gold standard)	FDの症状と相関性が高い 非侵襲的, 簡便, 安価 再現性がある
欠 点	侵襲的, 高価	
適 用	研究目的	研究目的 日常診療にも適用可能

するFDの病態(胃適応弛緩障害, 内臓知覚過敏など)に影響を及ぼし, 容量負荷耐性の低下をきたすと考えられた。DTはFD患者に対する簡便な病態検査法として有用である。

#### 文 献

- 1) Van Oudenhove L, Vandenberghe J, Geeraerts B, et al : Relationship between anxiety and gastric sensorimotor function in functional dyspepsia. *Psychosom Med* **69** : 455-463, 2007
- 2) Tack J, Piessevaux H, Coulie B, et al : Role of impaired gastric accommodation to a meal in functional dyspepsia. *Gastroenterology* **115** : 1346-1352, 1998
- 3) Boeckxstaens GE, Hirsch DP, Berkhout B, et al : Is a drink test a valuable tool to study proximal stomach function? *Gastroenterology* **116** : A960, 1999
- 4) Tack J : Drink test in functional dyspepsia. *Gastroenterology* **122** : 2093-2095, 2000
- 5) 中田浩二, 川崎成郎, 高橋朋子, 他 : FD患者の簡便な臨床病態検査法. *消化器科* **37** : 247-252, 2003
- 6) Jones MP, Hoffman S, Shah D, et al : The water load test ; observations from healthy controls and patients with functional dyspepsia. *Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol* **284** : G896-904, 2003
- 7) Chen CL, Lin HH, Chen MC, et al : Dyspeptic symptoms and water load test in patients with functional dyspepsia and reflux disease. *Scand J Gastroenterol* **40** : 28-32, 2005
- 8) 中田浩二, 川崎成郎, 小曾根基裕, 他 : Functional dyspepsia(FD)の病態診断におけるdrink test(DT)の意義と有用性. *消化器医* **4** : 86-91, 2006